

ディベートで学ぶ税金入門

9月13日

前回の内容 おさらい

- ディベートの定義 2種類
- ディベートの「試合」 だからこそ、3つが決まっている
- ディベートの効用 とくに、●●的思考
- 政策論題の三角形
- 今回のルール(M/DM比較方式)

ディベートの定義

- あるテーマの是非を、2グループの話し手が賛成・反対の立場から第三者を説得する議論
- 肯定側、否定側、ジャッジの三者で成立するコミュニケーションのゲーム

ディベートの試合

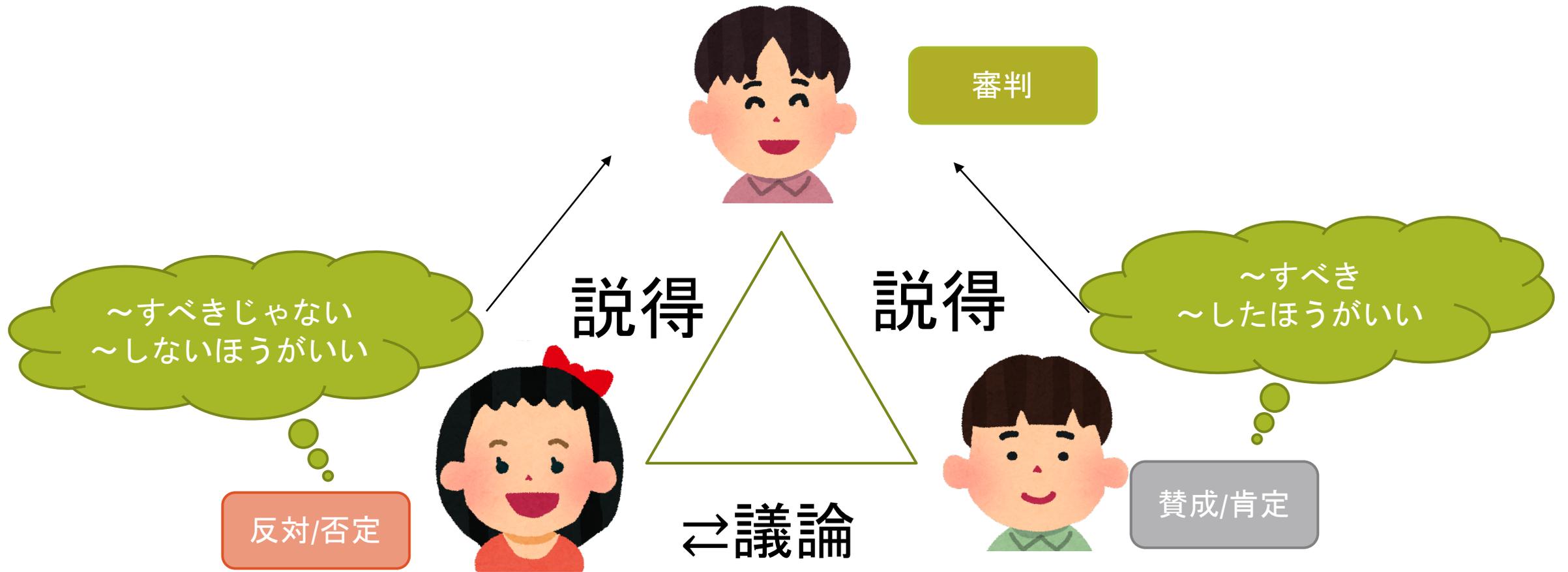
コミュニケーションのゲームとして成立するように

- 論題が決まっている
- 立場が決まっている
- 時間が決まっている

ディベートで身につく力

- 考える力
 - ・ 論理的思考力「こうだから、こうだよね」
 - ・ 批判的思考力「そうかな？ちがうんじゃないかな？」
 - ・ **複眼的思考力 賛成／反対／審判役**
 - ・ 合理的決断力「...ということは、こう！」
- 情報を集めて整理する力
- 表現に関する力
 - ・ 人前で話す力
 - ・ 人の話を聞く力
 - ・ グループワークで協力する力

政策論題の三角形



今回のルール(メリット・デメリット比較方式)

肯定側



否定側



論題を肯定

プラン(政策)導入のメリットを説明

論題を否定(現状維持を主張)

肯定側プラン導入のデメリットを説明

$M > DM$ 肯定側の勝利

$M \leq DM$ 否定側の勝利

本日の内容 180分(休憩含む)

- フローシートの取り方
- どうしたら勝てるか
- 肯定側・否定側の「立場」
- 反駁と総括の差異
- 1つ1つの論点、AREA法
- ミクシディアの使い方
- 指示する政策＝プラン
- 証拠資料の引用
- 肯定側立論と否定側立論の構造概要
- 現状との差異
- 価値とは何か
- 3つのING

前回のモデルディベート・今回新しいモデルディベートを使い、演習形式ですすすめます。

フローシート

| 肯定側立論 | 否定側反駁 | 否定側総括 | 肯定側総括 |
|-------|-------|-------|-------|
| | | | |
| 否定側立論 | 肯定側反駁 | | |
| | | | |

試合全体の流れを後から(自分が)

見て把握できるメモ

→主張と根拠、議論の流れを意識して
メモする

論題「日本の小中学校は、昼寝の時間をもつべきである」

| 肯定側立論 | 否定側反駁 | 否定側総括 | 肯定側総括 |
|--|--|--|-------------------------|
| 海外には昼寝の時間ある 日本も制度を導入しよう 30分の昼寝タイム 午後学習に集中できるから 仮眠によるリフレッシュ 科学的に証明 NASA宇宙飛行士実験 昼に26分間の仮眠 認知34%↑ 注意力54%↑ GAFなど休息仮眠推奨 | →昼寝効果なし！ →米国大人宇宙飛行士と 日本子ども 同じ効果？ →日本人恥ずかしい 人前で昼寝しない テスト勉強 読書 遊ぶ 昼休みが長くなるだけ | 肯定側の主張 「昼寝でいいことある」 でも、日本人寝ない 例) 高校1ヶ月半昼寝実施 週1日以上昼寝208人 他の時間に寝た149人 昼寝しなかった595人 寝ると言っても寝ない うっかり他の時間に寝る ↓ 昼寝による集中効果少ない 他の人は単に拘束延長DM | 認知・注意力↑ どう効果が違う？ |
| 否定側立論 | 肯定側反駁 | | |
| 昼寝設けるべきでない 学校拘束時間長くなるから 8時15分～4時半の場合 30分の昼寝で下校5時 30分貴重 ①先生 長時間労働 OECD最長 小3割 中6割 過労死ライン 平日5日間で更に2時間半+ ②生徒・児童 冬下校時間に日没 習い事で日没後の外出↑ 事件・事故リスク↑ | →先生・生徒負担増えない →先生も寝る場合 先生にも昼寝効果及ぶ 午後の効率↑時間外労働↓ →先生は寝ない場合 監督中に下校後の仕事OK 差がない | | |

肯定側：黒
 否定側：赤
 主審コメント：青
 個人コメント：緑

増える↑
 減る↓

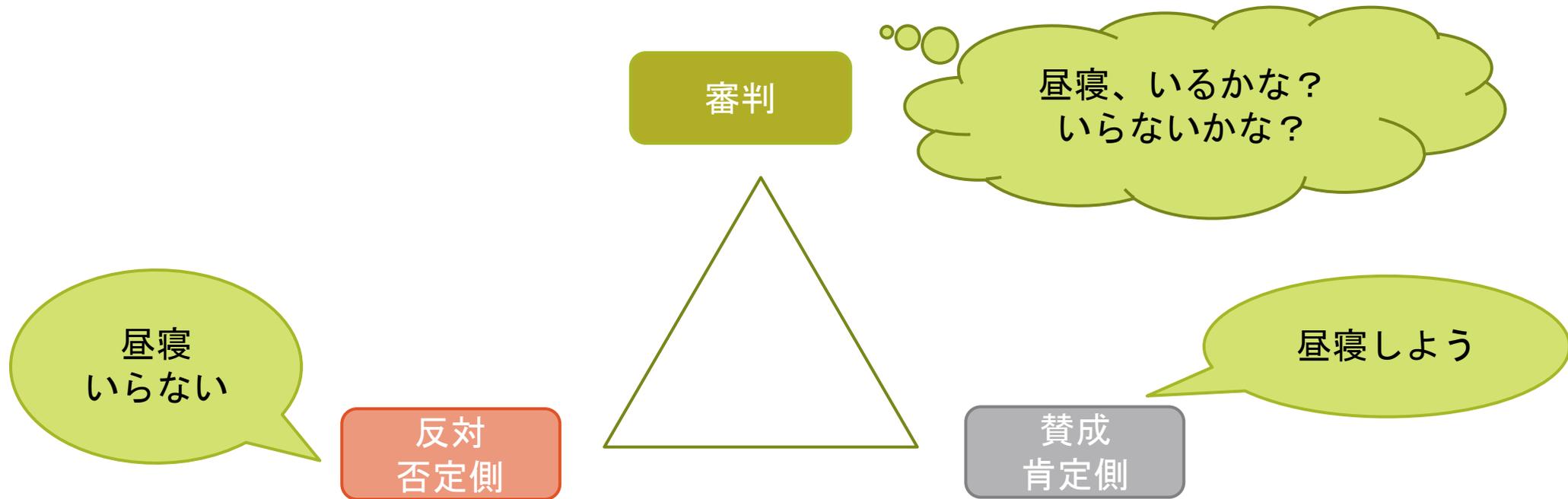
議論の繋がりを矢印で表現

数字は覚えにくいので注意して記入

まとめの部分はもくもくで括る

昼寝でリフレッシュ
 OR 事務を進める時間
 先生にもよい効果

【復習】 前回のモデルディベート どうしたら勝てたのでしょうか？



論題 「日本の小中学校は、昼寝の時間をもつべきである」

肯定側の勝利条件

$$M > DM$$



「拘束時間が長くなる問題より、
仮眠によるリフレッシュ効果の方が
大きい」

とジャッジを説得

肯定側



論題を肯定

プラン(政策)導入のメリットを説明

否定側の勝利条件

$$M \leq DM$$



「仮眠によるリフレッシュ効果より
拘束時間が長くなる問題の方が
大きい」

もしくは

「仮眠によるリフレッシュ効果と
拘束時間が長くなる問題は
同程度の大きさである」

とジャッジを説得

否定側



論題を否定(現状維持を主張)

肯定側プラン導入のデメリットを説明

肯定側・否定側の「立場」

肯定側



プラン(政策)の導入を主張

改革派

否定側



現状維持を主張

×今がいい ○今のままがいい

保守派

反駁と総括の差異

否定側反駁

「日本人は恥ずかしいので人前で昼寝をしない」

否定側総括

「実際に福岡県の高校で導入して効果がなかった」

反駁は反対意見を述べる時間

総括はまとめる時間

→福岡の事例は反駁に入れるべき

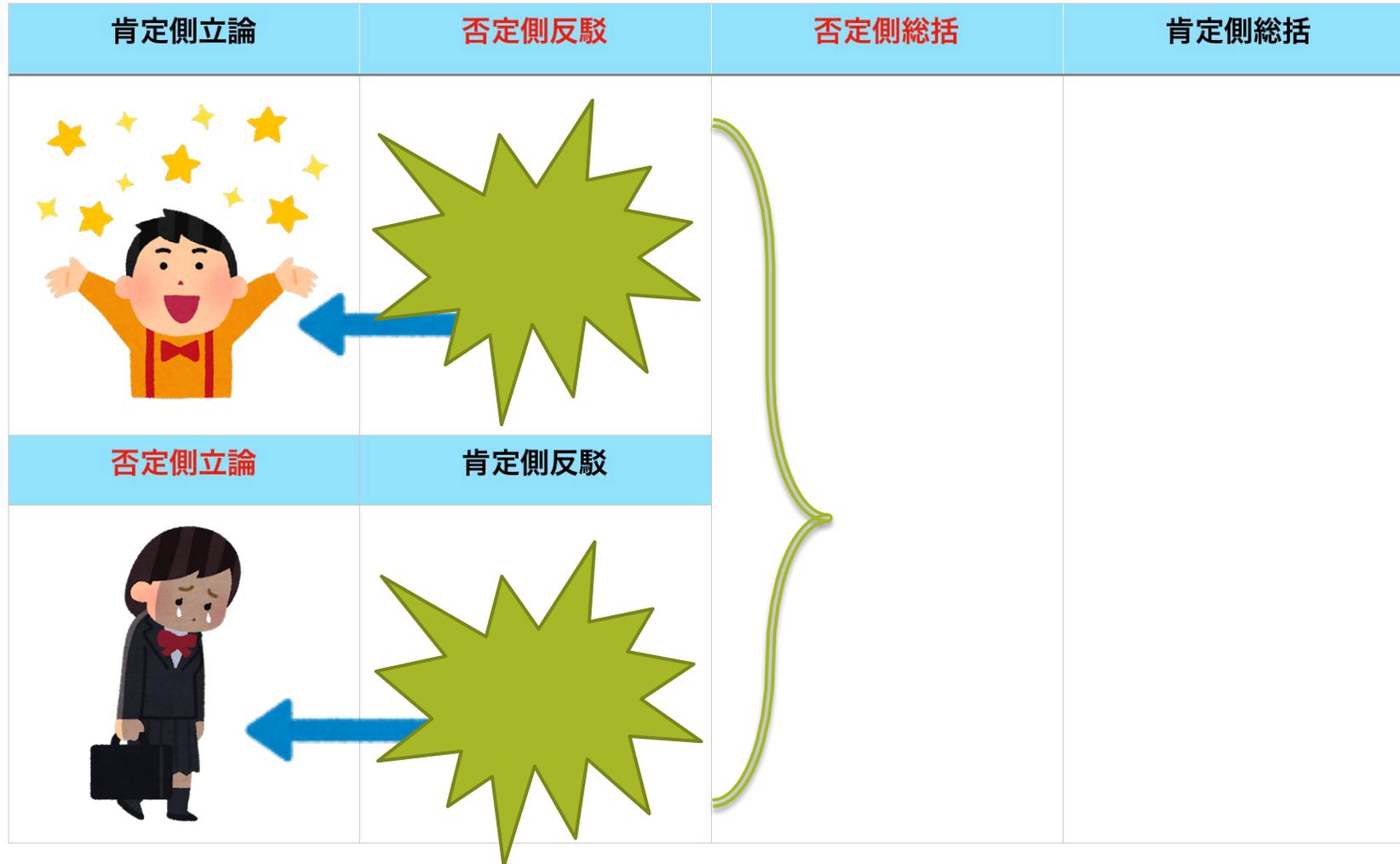
ルール違反

遅すぎる反駁
(=総括で反駁しない)

新しい議論
(=主張は立論で)



遅すぎる反駁(=総括で反駁しない)



新しい議論(=主張は立論で)

| 肯定側立論 | 否定側反駁 | 否定側総括 | 肯定側総括 |
|--|---|-------|-------|
|  |  | | |
| 否定側立論 | 肯定側反駁 | | |
|  |  | | |

1つ1つの論点

海外には、小中学校に昼寝の時間を設けているところがあります。わたしは、日本にもその制度を導入し、30分の昼寝タイムを設けるべきだと考えます。

→主張

なぜなら、昼寝をすることで午後の学習に集中できるようになるからです。

→理由

仮眠によるリフレッシュで、学習や作業に集中できたという経験はありませんか？それはあなたの個人的な体験にとどまらず、科学的に証明されていることです。

NASAが宇宙飛行士の睡眠について行った実験を紹介します。昼に26分間の仮眠をとったら、認知能力が34%、注意力も54%上がったということです。

→根拠

今では、GAFAなどの世界企業の多くも仮眠スペースを設置するなど休息や仮眠を推奨しています。

→具体例

昼寝の時間がもったいないと思うかもしれませんが、学習に集中するためには、昼寝の時間が逆に必要なのです。日本の小中学校にも、昼寝の時間を作りましょう。

→主張

1つ1つの論点

むしろ、わたしは、昼寝の時間を設けるべきではないと考えます。

→主張

なぜなら、その分、学校の拘束時間が長くなるからです。

→理由

例えば、8時15分に始まって4時半に終わるクラスの場合、30分の昼寝をとるなら下校時間は5時にずれでしょう。たった30分と思うかもしれませんが、この30分は貴重です。

→根拠

まず、先生にとって。現在、日本では教職員の長時間労働が問題になっています。日本の小中学校の教職員の1週間あたりの勤務時間は、OECD加盟48か国の中で最長だそうです。また、公立小学校教諭の3割、公立中学校教諭の6割が過労死ラインを超える長時間労働をしているそうです。1日30分、平日5日間で2時間半の勤務時間増は、彼らをますます追い込むことになります。

次に、生徒・児童にとって。30分下校時間が遅くなると、冬場などは下校時間に日が暮れているということも多くなります。下校後に塾や習い事に行くとなると、日没後の外出が増えることになります。事件や事故に巻き込まれるリスクが増えます。

よって、学校の拘束時間をこれ以上増やすべきでないという観点から、昼寝の時間に反対します。

→主張

AREA法で説得力をあげよう↑



右にあった動物、何だった???

AREA法で説得力をあげよう↑

右にあった動物、何だった???

AREA法＝「しかだったし」で 説得力をあげる↑↑↑

- ASSERTION=主張
- REASON=理由、～から
- EVIDENCE=根拠、だって～じゃん
- EXAMPLE=具体例、たとえば
- ASSERTION=主張

主張のサンドウィッチ



【アクティビティ1】 AREAを使って1分間スピーチしてみよう

「おすすめの勉強法」

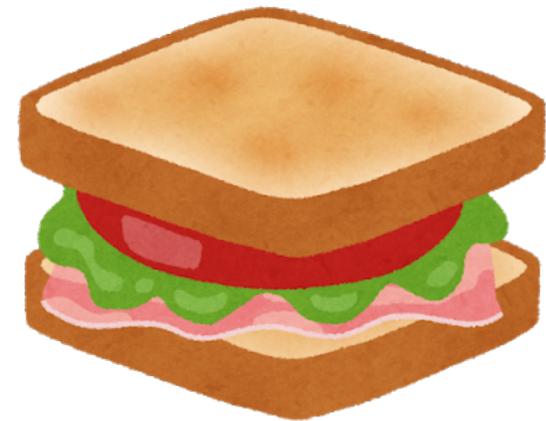
「おすすめの余暇の過ごし方」

どちらかのお題を選択しましょう

主張 → 理由 → 根拠・事例 → 主張

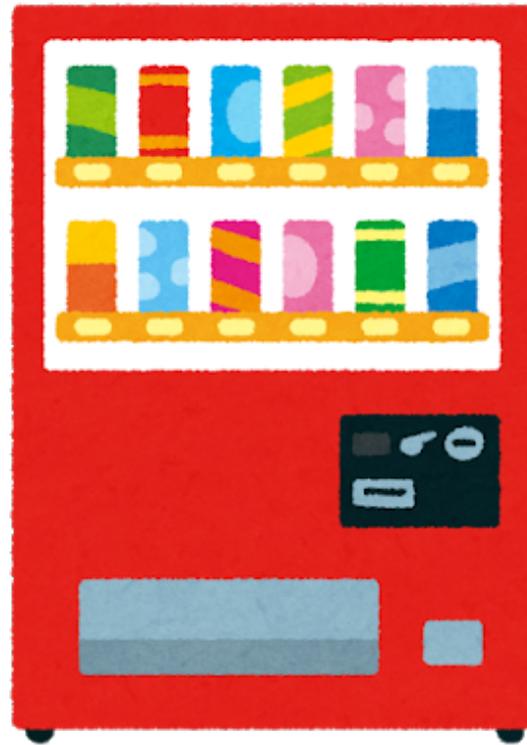
サンドウィッチを作りましょう

準備時間は5分間



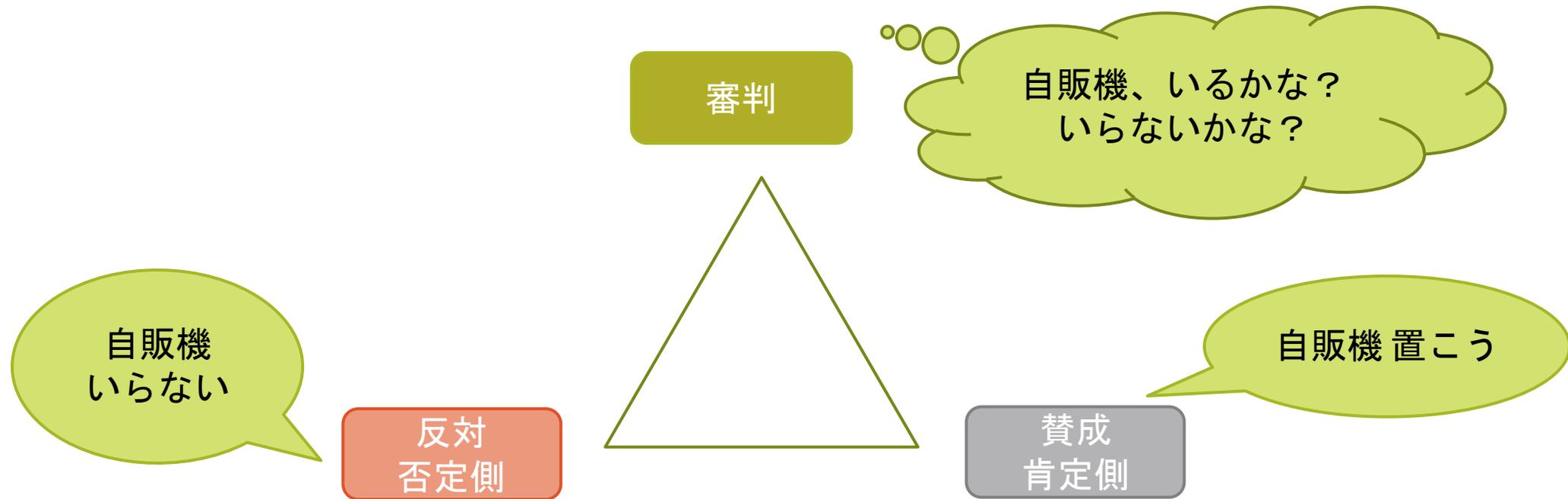
来週の試合にむけて、
班ごとにミクシディアの
使い方を確認しましょう

【アクティビティ2】 モデルディベートの視聴と審判体験②



論題 「日本の小中学校は、自動販売機を設置すべきである」

【アクティビティ2】 モデルディベートの視聴と審判体験②



論題 「日本の小中学校は、自動販売機を設置すべきである」

【アクティビティ2】 モデルディベートの視聴と審判体験②

目標

- ①フローを取って、議論を追いかける
- ②M/DM比較方式で、判定理由を述べる



【アクティビティ2】 モデルディベートの視聴と審判体験②

試合を聴く



各自で判定を出す



班ごとにフローを口頭確認



「判定スピーチ」を見せ合う

ここまでは
1人で！



【アクティビティ2】 モデルディベートの視聴と審判体験②

https://us02web.zoom.us/rec/share/Ey5ECqouxLpXSY6kPyBOjigrJcQaBjgq9N2Q3iBlldZj6lnOYLY4V2E_RRYX-BCoJ.6oR4iKzyYGM6fCZJ

アクセスパスワード: Zei!og13

支持する政策＝プラン

- 肯定側プラン：論題を肯定するための方法
- 否定側プラン：現状維持
- 試合中に「プラン」という場合は、一般的に肯定側プラン

肯定側プラン

この試合では

「そこでわたしは、自販機を設置すべきだと考えます。
ここでは、お茶やスポーツドリンクといった飲み物を売ります。」



プラン

お茶やスポーツドリンクといった飲み物を売る自販機を設置します。

肯定側プラン

プラン1

お茶やスポーツドリンクといった飲み物を売る自販機を設置します。

スパイク
プラン

プラン2 キャッシュレス自販機とし、現金は扱いません。

固定プラン

「税金ディベート」では、プランは固定

肯定側プラン：論題ごとに指示

否定側プラン：現状維持

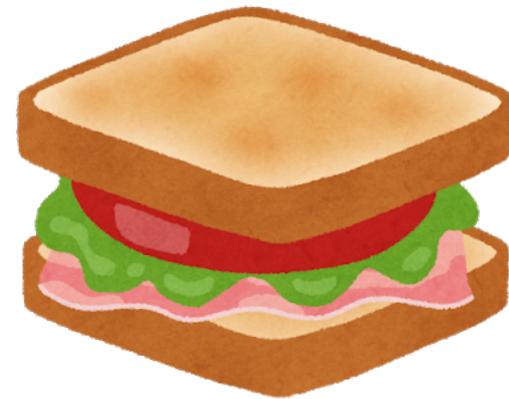
×「自販機を設置するのではなく、売店を設置します。」



証拠資料の引用

主張 → 理由 → 根拠・事例 → 主張

サンドウィッチの具の1つ
証拠となる資料を挟む



説得力のある引用の仕方は？！

【肯定側立論】

汗を大量にかくと、体内の水分とともに塩分やミネラルが奪われます。そこに水分補給だけを行うと、血液中の塩分・ミネラル濃度が低くなり、逆に、熱中症の発症や悪化の原因になります。よって、のどの乾きを強く感じるときは、水道水ではなくスポーツドリンクを飲むべきです。

【否定側立論】

「過労死等防止対策白書」によると、小中学校の教員の8割以上が業務に関連するストレスや悩みを抱えています。また、生徒児童もストレスを抱えています。不登校の小中学生は文科省の調査で14万人です。

固定資料

「税金ディベート」では、配布されている資料から引用する

番号を読み上げてほしい

今回は、一言一句そのまま読んでも、要約しても良い

肯定側立論の概要

メリット

現状の問題



重要性



(プラン導入からの)
解決プロセス

順番入れ替え
OK

ラベル(タイトル)
つけよう

否定側立論の概要

デメリット

現状とプランの違い



(プラン導入からの)

問題発生プロセス



重要性・深刻性

順番入れ替え
OK

ラベル(タイトル)
つけよう

【ワーク】 メリットを並び変え、ラベルをつけよう

現状の問題



(プラン導入からの)

解決プロセス



重要性

高校や大学の構内には売店や自販機がありますが、公立の小中学校の校内にはありません。そこでわたしは、自販機を設置するべきだと考えます。ここでは、お茶やスポーツドリンクといった飲み物を売ります。

すると、生徒児童が必要に応じて飲み物を購入し、のどの乾きを癒せるようになります。

現在、多くの小中学生は水筒を持参しています。そして、水筒を忘れてしまったり、飲み干してしまったりしたとき、困ることがあります。自販機を設置すれば、そんな時に飲み物を買えるのです。

とくに、熱中症予防に有効です。自販機があれば、スポーツドリンクを購入できます。

汗を大量にかくと、体内の水分とともに塩分やミネラルが奪われます。そこに水分補給だけを行うと、血液中の塩分・ミネラル濃度が低くなり、逆に、熱中症の発症や悪化の原因になります。よって、のどの乾きを強く感じるときは、水道水ではなくスポーツドリンクを飲むべきです。

熱中症はひどい場合には死につながることもある、危険なものです。2018年には、愛知県の小学校で1年生が死亡しました。不幸を繰り返さないことが大切です。

よって、水分補給のために、自販機を設置すべきです。

メリット：水分・塩分の適切な補給

現状の問題1：水分の補給

高校や大学の構内には売店や自販機がありますが、公立の小中学校の校内にはありません。そこで、多くの小中学生は水筒を持参しています。そして、水筒を忘れてしまったり、飲み干してしまったりしたとき、困ることがあります。

現状の問題2：塩分の補給

水筒がないとき、小中学生は水道水を飲みます。しかし、それが問題です。汗を大量にかくと、体内の水分とともに塩分やミネラルが奪われます。そこに水分補給だけを行うと、血液中の塩分・ミネラル濃度が低くなり、逆に、熱中症の発症や悪化の原因になります。

そこでわたしは、自販機を設置するべきだと考えます。プランを2点に分けて説明します。

プラン1 お茶やスポーツドリンクといった飲み物を守る自販機を設置します。 **プラン2 キャッシュレス自販機とし、現金は扱いません。**

解決プロセス1：必要に応じた購入

プランを実行し、自販機が設置されると、生徒児童が必要に応じて飲み物を購入し、のどの乾きを癒せるようになります。

解決プロセス2：熱中症対策

自販機があれば、スポーツドリンクを購入できます。現状の問題2で述べた、塩分等の不足を補うことができます。

重要性：死亡事故の防止

熱中症はひどい場合には死につながることもある、危険なものです。2018年には、愛知県の小学校で1年生が死亡しました。適切なタイミングで水分・塩分を補給し、不幸を繰り返さないことが大切です。

よって、水分・塩分の補給のために、自販機を設置すべきです。

現状の問題1：水分の補給

高校や大学の構内には売店や自販機がありますが、公立の小中学校の校内にはありません。そこで、多くの小中学生は水筒を持参しています。そして、水筒を忘れてしまったり、飲み干してしまったりしたとき、困ることがあります。

現状の問題2：塩分の補給

水筒がないとき、小中学生は水道水を飲みます。しかし、それが問題です。汗を大量にかくと、体内の水分とともに塩分やミネラルが奪われます。そこに水分補給だけを行うと、血液中の塩分・ミネラル濃度が低くなり、逆に、熱中症の発症や悪化の原因になります。

そこでわたしは、自販機を設置するべきだと考えます。プランを2点に分けて説明します。

プラン1 お茶やスポーツドリンクといった飲み物を守る自販機を設置します。 **プラン2**
キャッシュレス自販機とし、現金は扱いません。

解決プロセス1：必要に応じた購入

プランを実行し、自販機が設置されると、生徒児童が必要に応じて飲み物を購入し、のどの乾きを癒せるようになります。

解決プロセス2：熱中症対策

自販機があれば、スポーツドリンクを購入できます。現状の問題2で述べた、塩分等の不足を補うことができます。

悪

現状の
世界

良

プラン
導入後
の
世界

【ワーク】 デメリットを並び変え、ラベルをつけよう

現状とプランの違い



(プラン導入からの)

問題発生プロセス



深刻性

わたしは、自販機を設置すべきではないと考えます。

なぜなら、自販機があると学校に小銭を持っていかなければならなくなるからです。これは、トラブルの元になります。

例えば、小銭がなくなると大騒ぎになります。誰かが盗んだのではないかと持ち物検査になったり、学級会が開かれたりします。そうすることで、先生の手間と、先生・児童・生徒のストレスが増します。

紛失以外にも、学校帰りに買い食いをするとか、貸し借りするとか、現金を持ち込むことはさまざまなトラブルの原因になります。

「過労死等防止対策白書」によると、小中学校の教員の8割以上が業務に関連するストレスや悩みを抱えています。また、生徒児童もストレスを抱えています。不登校の小中学生は文科省の調査で14万人です。

これまで給食費は、集金袋での納入が一般的でしたが、近年は口座振替が広がりつつあります。学校に現金を持ち込むことによる問題を減らしているのです。自販機を設置すると、この流れに逆行することになります。

わざわざ自販機を導入して、新たなトラブルをうむべきではありません。

デメリット：金銭トラブル

現状とプランの違い1：現金を持ち込まない対策

これまで給食費は、集金袋での納入が一般的でしたが、近年は口座振替が広がりつつあります。学校に現金を持ち込むことによる問題を減らしているのです。

現状とプランの違い2：先生のストレス

「過労死等防止対策白書」によると、小中学校の教員の8割以上が業務に関連するストレスや悩みを抱えています。そこで近年、補助の先生をつけるなど、教員の負担を減らす努力がなされています。

現状とプランの違い3：児童・生徒のストレス

児童・生徒もストレスを抱えています。不登校の小中学生は文科省の調査で14万人です。そこで近年、少人数学級制、カウンセラーの配置など、過ごしやすい学級づくりの努力がなされています。

問題発生プロセス：現金の持ち込み

肯定側プランを導入すると、学校で自販機を利用するために、小銭を持参することになります。トラブルの元になります。例えば、小銭がなくなると大騒ぎになります。誰かが盗んだのではないかと持ち物検査になったり、学級会が開かれたりします。そうすることで、先生の手間と、先生・児童・生徒のストレスが増します。紛失以外にも、学校帰りに買い食いをするとか、貸し借りをするとか、現金を持ち込むことはさまざまなトラブルの原因になります。

深刻性：ストレスの増加

自販機を設置すると、さまざまな金銭トラブルを誘発します。これは、ストレスを減らそうとしている現状の流れに逆行することになります。苦しむ先生や子どもたちをこれ以上増やすべきではありません。

よって、自販機を設置するべきではありません。

デメリット：金銭トラブル

現状とプランの違い1：現金を持ち込まない対策

これまで給食費は、集金袋での納入が一般的でしたが、近年は口座振替が広がっています。学校に現金を持ち込むことによる問題を減らしているのです。

現状とプランの違い2：先生のストレス

「過労死等防止対策白書」によると、小中学校の教員の8割以上が業務に関連するストレスや悩みを抱えています。そこで近年、補助の先生をつけるなど、教員の負担を減らす努力がなされています。

現状とプランの違い3：児童・生徒のストレス

児童・生徒もストレスを抱えています。不登校の小中学生は文科省の調査で14万人です。そこで近年、少人数学級制、カウンセラーの配置など、過ごしやすい学級づくりの努力がなされています。

問題発生プロセス：現金の持ち込み

肯定側プランを導入すると、学校で自販機を利用するために、小銭を持参することになります。トラブルの元になります。例えば、小銭がなくなると大騒ぎになります。誰かが盗んだのではないかと持ち物検査になったり、学級会が開かれたりします。そうすることで、先生の間と、先生・児童・生徒のストレスが増します。紛失以外にも、学校帰りに買い食いをするとか、貸し借りをするとか、現金を持ち込むことはさまざまなトラブルの原因になります。



現状の
世界

良



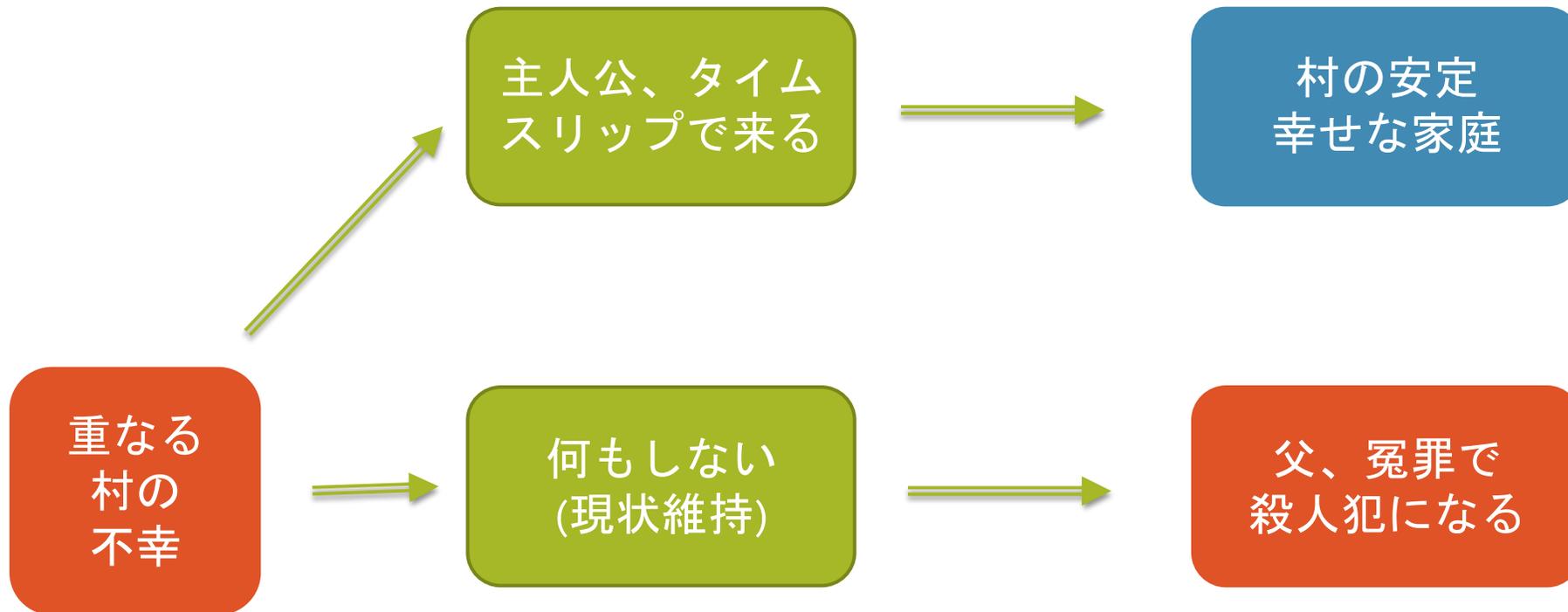
プラン
導入後
の
世界

悪

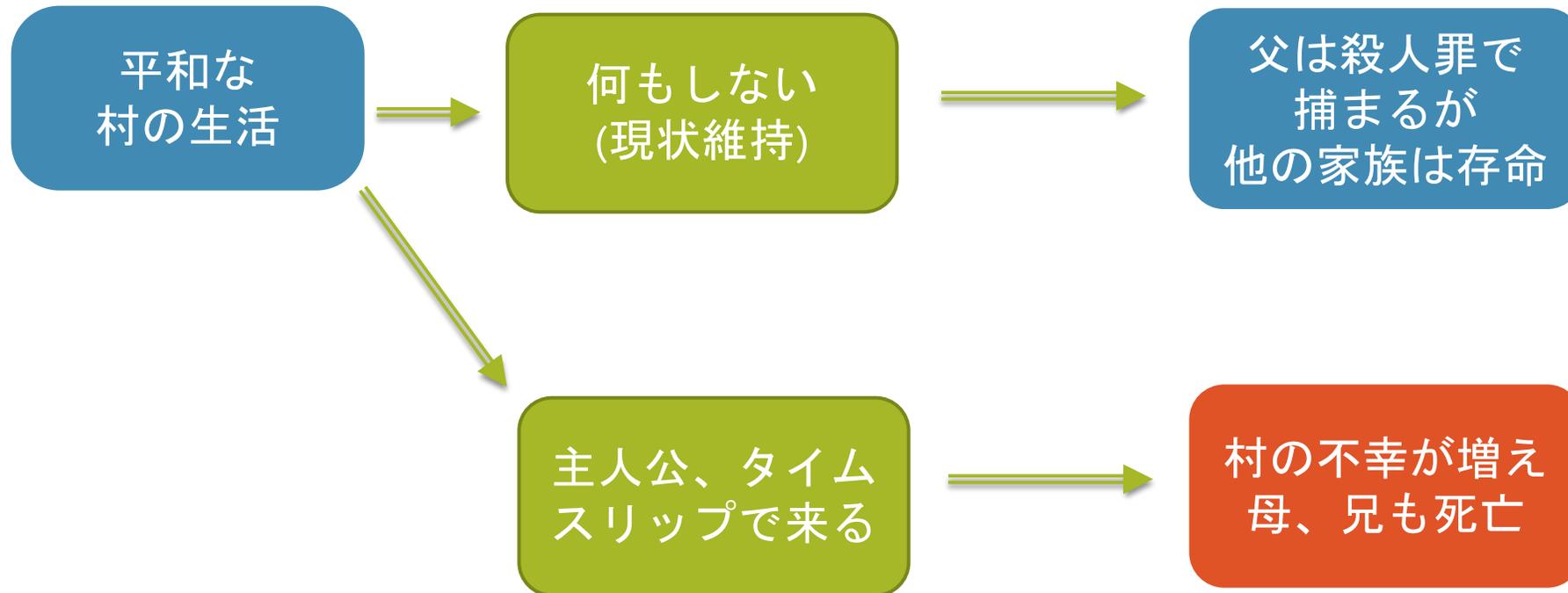
三要素に分けて書くことで

- 現状の世界とプラン後の世界の違いが明確化する
- 価値の議論を深められる

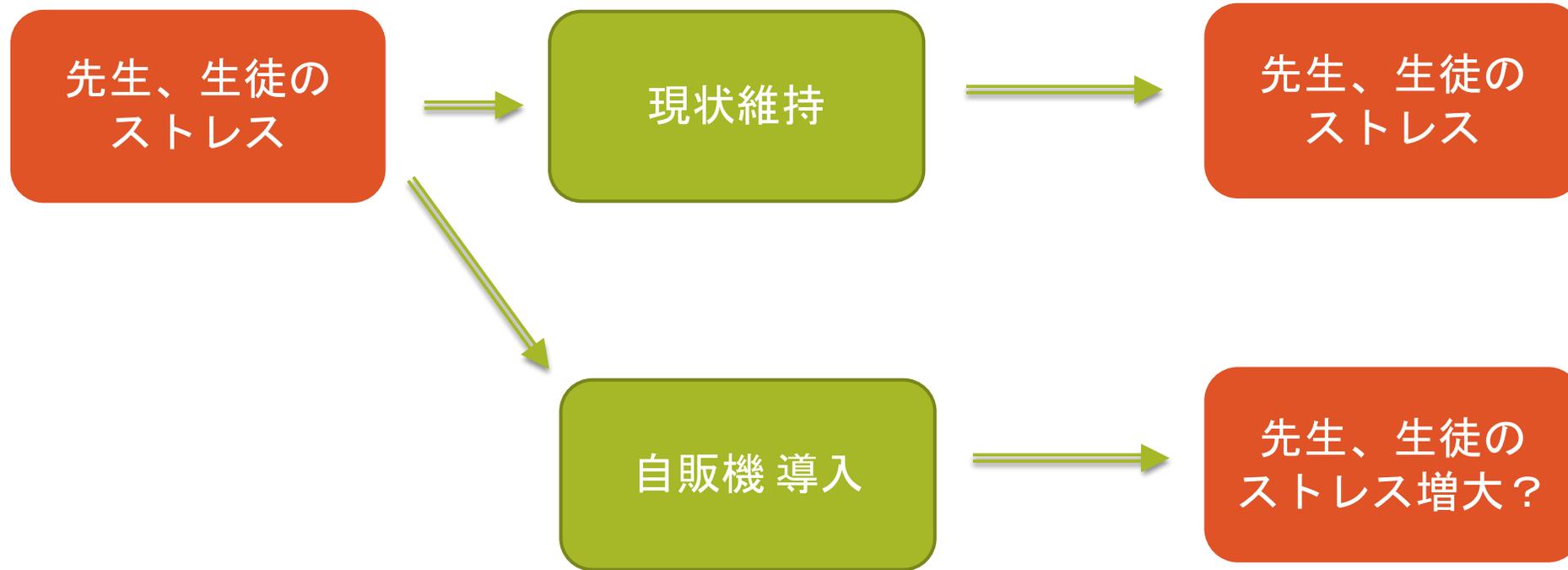
肯定側 現状との差異 (「テセウスの船」を例に)



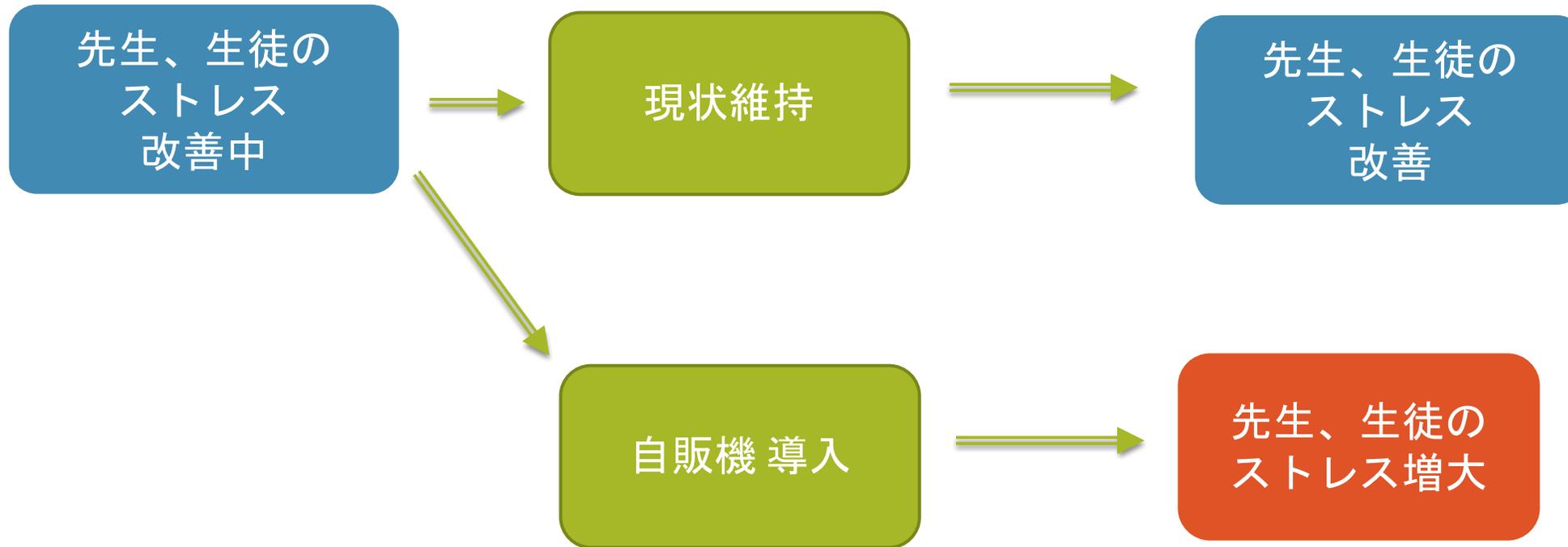
否定側 現状との差異 (「テセウスの船」を例に)



否定側 現状との差異



否定側 現状との差異



肯定側・否定側の「立場」

肯定側



プラン(政策)の導入を主張

改革派

否定側

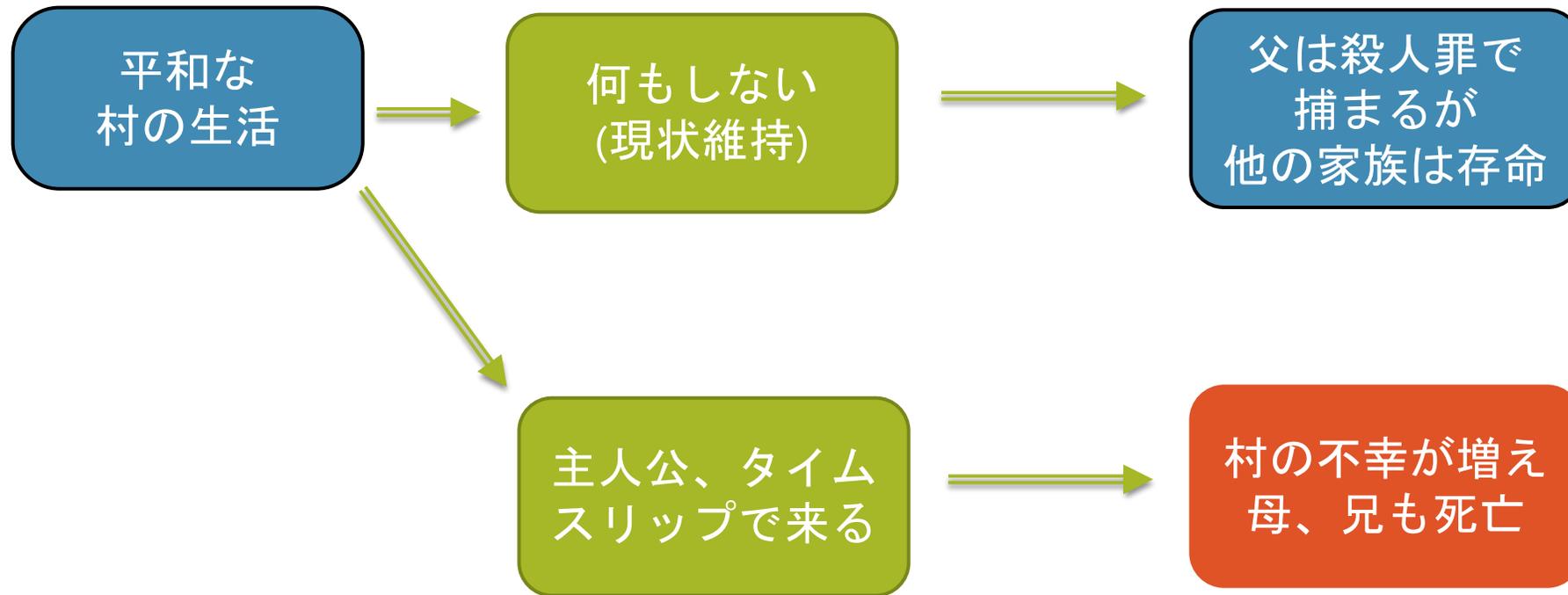


現状維持を主張

×今がいい ○今のままがいい

保守派

「今」と「今のまま」は違う



「価値」とは？

「重要性」「深刻性」がないと勝てない

どんなトラブル？

人によってイメージが違う



ジャッジの評価が分かれる

Mの価値 < DMの価値

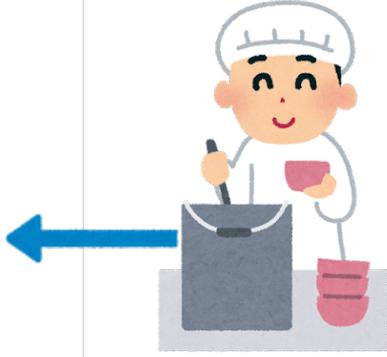
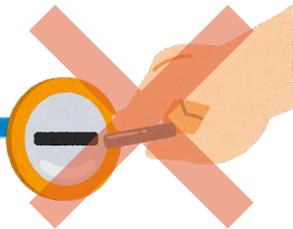
イメージを一致させる説明！

比較して勝てる話をすべき！

深刻性：ストレスの増加

自販機を設置すると、さまざまな金銭トラブルを誘発します。

発生確率と価値をそれぞれ比較してまとめる

| 肯定側立論 | 否定側反駁 | 否定側総括 | 肯定側総括 |
|--|---|-------|-------|
|  |  | | |
| 否定側立論 | 肯定側反駁 | | |
|  |  | | |

小中学校として
優先すべきことは？！
健康リスク？
いじめ防止？

3つのING

・ラベリング

論点の題名をつける

・ナンバリング

番号をふる

「1つ目に...2つ目に...」

・サインポスティング

論点の指差し確認

「肯定側は『水筒を忘れた時や足りなくなった時に飲み物を買える』と言いました。だからといって～」

来週の試合にむけて
論題など確認しましょう